



エピペンの使い方を説明する柴田さん(左)

食物アレルギー克服、

理解へ250人

● 親の会が初めて地方で教室

● 光
全国組織の食物アレルギーを持つ親の会（武内澄子代表）主催の第八回食物アレルギー教室が二十七日、光市



講演する山手院長

のあいぱく光で開かれ、県内外の約二百五十人が講演を聞いたりした料理の実習に参加

して熱心に学んだ。

同教室はこれまで首都圏や関西で開かれてきたが、浅江のやまて

小児科・アレルギー科

医院（山手智夫院長）に

同会から申し入れがあ

り、地方都市では初め

ての開催になった。

第一部は講演で、ま

ず福岡病院小児科の柴

田留美子医師が「食物

アレルギー 成長とと

もに考える対策と負荷

試験とエピペン」と題し

て話したあと、山手院

長が「アレルギーっ子を

育てた体験から」、武内

代表が「食物アレルギー

ー対応ツアアの取り組み

を話した。

柴田さんは食物アレ

ルギーの概要やアドレ

ンリン入りの自己注射

器「エピペン」の使い方

を説明し、アレルギー

の発症時にエピペンの

注射で症状の改善が期

待できること、学校で

も教師全員が使用方法を

習得することが求めら

れると説いた。

来財団の協力で開かれ

山手さんは子どもが

食物アレルギーを発症

したが、たまたま米国

に転動したことで実質

的な転地療法になっ

て発症がなくなった体

の弁当などを作った。